

お名前（佐藤道代）

習った芸能（田束鎧念仏剣、十一日町えんぶり組）

1) 三陸の芸能を習ってみていかがでしたか？

田束鎧念仏剣:「踏んで持ち上げる」、身体の感覚がとても身体にはまり気持ちが落ち着きました。岩手の義経伝説や、征夷大將軍坂之上田村麻呂の話をもっと最初に伺ったことで、歴史的背景を想像しました。

当時の政治の中央から来た征服者が、その土地の土着の人々と土地を治めた際に、土着の魂をおさめて持ち上げるかのような、鎮魂の祈りのようなものを感じました。

十一日町えんぶり組: もっと抽象的で華やか、艶やかな祭の振りと感じました。

烏帽子を振るのはとても目が回りましたが、勇壮華麗な振りですね。

女性の振りは、可憐で、大地を踏み鳴らし春を待ち望む気持ちになりました。

2) 今回はオンラインでの芸術体験でしたが、率直にいかがでしたか？良かった点、困った点をお聞かせください。（応募、事前準備、受講のことなど）

ご担当者が必要な衣装等、とても熱心に連絡して下さって、助かりました。

今東北に行きたくても行けないので、本当にありがたい機会を頂きました。

3) 受講をされて、ご自身のアーティスト活動において、どのような影響、意味があると思われましたか？

私のやっているモダンダンスは「子供達に意味のない動きを一つたりともさせてはならない」その子にとって意味ある動きで無いといけない」と言う創始者のイサドラ・ダンカンの言葉があります。それ故に私は動きの意味を探すタイプの舞踊家だと思います。芸能の動きには、古くからその土地にある心の動きが、洗練され凝縮されていると感じました。

振りや歴史解説から、その土地の魂を慮る事ができて、舞踊家として意味のあると事だと感じました。それは、日本人で洋舞をやっている私のような者が、「何故この動きをするのか？」を確認する事だとも思いました。自分のルーツに触れ、自分の魂の動きを探し、願わくばダンス作品として、再構築して表現するための原動力になると感じました。温故知新こそ、アートを作る者の基本と感じました。

4) 今後も三陸の郷土芸能を習いたい、通いたいと思われたときに、AIR以外にどのような方法や制度があると良いと思われますか？

いつか現地に伺いたいとも思います。実際にいつ頃だったら学べるのか、宿泊先、学びへの御礼はどうしたらよいのか？などをコーディネーターの方に聴けるとありがたいです。

現実には、仕事も、子育てもあり、沢山の時間やお金を掛けては学びにいけないとは思いますが。でもダンサーとしては、とても意味のある事と思い、いつかやりたいです。

可能だったら、芸能留学助成制度がありましたら、ありがたいです。学んだ事を、ダンス作品にして伝える事で、逆にその地域の事を、都市の人や海外に紹介し、その地域の方々に還元する事ができたら、とても嬉しいですが、そこまでやるには、その地域の事をよく学び、長い期間おつきあいさせて頂く事が必要だろうと思います。

まずは、オンライン芸能体験をさせて頂けたらありがたいです。

5) 上記以外にご意見やご感想がございましたら、自由にお書きください。

教えて下さった皆様、葛谷さん方々 JCDNのお陰で、良い体験が出来ました。本当にありがとうございました。

ぜひ、三陸の郷土芸能に会いに来てください。ご協力ありがとうございました。